



2021-2022年度 国際ロータリーのテーマ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

SERVE TO CHANGE LIVES



写真提供 倉敷南ロータリー会

Rotary  倉敷南ロータリークラブ
国際ロータリー第2690地区第7グループ 創立Jul.7.1961
〒712-8051 倉敷市中畝6丁目6-17

第 2873 例会 R. Song 「奉仕の理想」 天候：晴れ No.2873/2021. 11. 12

Guest なし /Visitor なし

出席 会員数 60 名（うち出席規定免除者 16 名①3 名②13 名）

11/12 の出席率 71. 15%（出席者 37 名、内①8 名）

欠席 浅見、土井、浜崎、波多、石本、中川、沼本、小田、大藤、奥山、田原、和田（一）、
和田（務）、渡辺（英）、山中、各会員（15 名）

●杉原副会長（小田会長代行）

- ・10/31 衆議院選挙が終了、自民党の苦戦も予想されたが、単独で過半数を超過する結果となりました。選挙当日、町内公民館で投票を行ったが初めて出口調査を受けました。毎回、開票と同時に当選確実が出ることもあり、間違ったらどうなるかと思うことがあるが、専門家によると統計学上は間違わないということである。スタートした第 2 次岸田内閣の政策に期待をしたいところです。
- ・R 財団より、三宅典一会員(9 回目)、白髪宏司会員(3 回目)の年次寄付に対し認証品の贈呈
- ・持ち回り理事役員会より、会員候補者 瀬戸埠頭株式会社代表取締役社長 吉住直樹氏の賛否用紙を 11 月 5 日に送付しました。12 月 10 日にご入会予定です。

●幹事報告（井上幹事）

- ・岩崎地区ガバナー事務所より 11 月の R レート 1 ドル 114 円、他報告 11 件

●親睦・家族委員会（野口委員長、安藤副委員長、古山会員）

- ・11 月誕生日会員：原、土井、大谷、寫田(章)、藤井、各会員へ記念品を贈呈
- ・12/16 のクリスマス例会のプレゼントを当日まで募集します。出来れば 1 人 1 点以上お願いしたい。プレゼントはヴェルジェ倉敷、事務局で受付しています。

●雑誌・記録委員会（横道委員長）

- ・ロータリーの友 11 月号より：①毎月の表紙で、動物をモチーフにしたことわざを紹介。今月は「明日はわが身」。②大津東 RC より女性活躍社会について。創立 50 周年記念でカレンダーの作成など積極的な活動を展開。③光ファイバー発展に貢

献された東京工業大学栄誉教授 末松安晴氏のデジタル技術、光通信について。

●スマイル報告（永井 S.A.A）

- ・中西会員：妻の誕生日に花束をありがとうございました。
- ・渡辺（祐）会員：西日本豪雨で被災した総社市下原の工場周辺を再整備し、新しく建物を建てました。周辺の復興の一助となればと思っています。
- ・井上幹事：石田会員の卓話を楽しみにしています。
- ・プログラム委員会・山本委員長、井原副委員長、青井、森山、横田各委員：石田会員のショートスピーチをよろしくお祈いします。

●例会プログラム

1. クラブ年次総会・クラブ協議会

【杉原副会長】次々年度会長は現段階で未選出であり決定次第小田会長より報告いたします。

【佐藤会長エレクト】次年度会長を務めさせていただきます。次年度幹事を石田会員に、ロータリー財団委員長を永井委員に。各委員長についてはこちらに一任いただき1月に発表。

- ・次年度石田幹事より挨拶：入会してあまり時間が経過しておらず、皆さまに教えていただくことも多いと思うが、しっかり勉強して佐藤会長を支えていきたい。
- ・次年度永井ロータリー財団委員長より挨拶：会長の時、各委員長を決定する際には皆さまに快く引き受けていただいきましたので、依頼があった際は喜んで引き受けさせていただきます。ロータリー財団委員長としてご寄付をお願いすることになると思います。

2. ショートスピーチ：「みんなで作る財団おかやまの活動について」石田篤史会員

- ・普段は工務店の仕事をしているが、みんなで作る財団おかやま（以下、みんなつく）でも活動している。みんなつくは企業出資ではなく、大きな財産を所有しないコミュニティー財団であり、都度、寄付を集めて活動を行っている。
- ・アメリカでは100年前くらいからこのような財団が存在しており、日本では1991年に大阪コミュニティー財団が設立された（11/12で創立30年となる）。
- ・みんなつくは、2012年に一般財団法人として設立し、2014年に岡山県で初めて、特定の財政基盤を持たない公益財団となった。2019年に第10回ファンレイジング大賞を受賞した。みんなつくでは、地域版クラウドファンディングとして資金を集めること、基金の設立、円卓会議の3つの仕組みを提供することで資源の循環を進めている。
- ・西日本豪雨の際にももたらう基金を設置。7月10日から第1次助成を開始、これまで約5,000万円をプロジェクトに助成。例えば、初期では仮設診療所の設置支援、避難所の緊急物資の調達支援。時期によって求められる支援内容が変化することから、これらにあわせて助成を行ってきた。最近では企業さんの製造の過程で出る端切れでエコバックを製作、売上の30%を瀬戸内の防災活動に役立てる「BRIDGE SETOUCHI」の取組みも行っている。

例会プログラム予定：

2021年11月12日(金)卓話 「企業経営とSDGs」 牧一穂様（十字屋グループ代表）

2021年12月3日(金)卓話 ゲスト卓話 松尾浩紀様（ダイヤ工業(株)代表取締役社長）